



## 社会福祉協議会や町内会の協力を得て、会員増

茨城県坂東市 新町シニアクラブ

会員数・88名(男性・35名・女性・53名)

私たちの住む地域は、坂東市の旧岩井市にある、さくら通り商店街を中心とした、とても活気のある所です。会員の多くは、商売をしている傍ら、地域の清掃活動やスポーツ大会へ参加、そして、社会福祉協議会（以下、社協という）の支部事業である三世代交流事業にも参加しています。内容は、射的や輪投げなどのレクリエーション、消火訓練や救命講習など様々です。



救命講習会に参加



大勢集まつた入会説明会

### シニアクラブからの相談に 地域が動いた

年々、シニアクラブの三世代交流事業への参加者が減少し始めたころ、前会長から、会員が減っているので交流事業に参加できないという相談を受けました。これをきっかけに、社協支部組織の特徴を活かし、「福祉推進員」の協力を得て、シニアクラブ会員の加入促進運動を実施することとなりました。「福祉推進員」とは、社協の支部組織に属しており、町内会長、民生委員、公民館分館関係者、各シニアクラブ会長、小学校PTA会長等で構成された、地域の実情に応じて福祉の推進に向けて活動している方です。

動する組織です。  
当時、私は町内会長という立場で支部事務に携わっていましたので、まず自らシニアクラブの会員となつて、加入促進を行いました。

まずははじめたことは、社協の協力を得てポスターを作成、商店街に掲示したことでした。次に、チラシを作成しました。内容はシンプルに、年間の活動の様子が分かるよう写真と申込用紙を載せて、三世代交流事業の参加者を取りまとめる際に、そのチラシを配布しました。

そして、チラシを配布しただけでは、加入には至らないと思い、

三世代交流事業開催後に、入会説明会を行つことにしました。もともと、私たちの周りでは、「地域のためには何か役に立つたい」とい

う声を耳にしていましたので、クラブの存在を知つてもらえば必ず入会につながると信じ、当日を迎えるました。参加者が集まるか、不安でしたが、加入希望者が40名ほど集まり、その日のうちに会員になつていただきました。

あれから1年が過ぎ、会員となつていただいた方が、加入していよいよ友人などを誘い、今では会員88名のクラブとなりました。

現在、クラブの主な活動は、週2回のグラウンド・ゴルフや、週1回の高齢者向けソフトボールの練習、週1回の健康体操教室を実施出来るまでになりました。

グラウンド・ゴルフは、工場の跡地を利用して、マットなどは手作りで作製、なるべくお金をかけないで楽しんでいます。高齢者向けソフトボールは、従来のソフトボールよりも柔らかく、ルールも簡単にになっています。

坂東市民健康体操は、坂東市が鹿児島県にある国立鹿屋体育大学の協力を得て出来た体操です。この健康体操は、「線路は

### 健康活動を軸に、 今後は後継者づくり



茨城県  
坂東市

続くよどこまでも」の替え歌に合わせて、スクワット、もも上げ、腹筋運動など5種目を行い、1種目体操することに百円が貯められるという内容になっています。貯金と言つても、実際にお金が貯まるわけではなく、筋肉の「筋」を指し、1曲終わると五百円が貯まり、参加者は貯金通帳を持つて、貯める楽しみをみつけて参加しています。

今では多くの方に会員となつて活動していただいていますが、私の目標は、会員全ての方が、一つでも多くの事業に参加していただくことです。ただ名前だけ入っているという状況では、入会していることにはならないと思うからです。また、会員の希望も事業の内容に取り入れていきたいと考えています。現在、会員から、「認知症サポーター養成講座」を開催して、一人ひとりが認知症を学び理解することで、安心して暮らせるまちづくりの手助けになるのではないかという意見が寄せられています。一方的な押し付けは、会員の存続につなげられないと感じています。今後は、様々な内容ごとにリーダーを決め、分散化することで後継者を作りながら、一緒に成長していきたいと考えています。

(会長 倉持萬吉)

北から南から



「貯筋」も楽しみな健康体操